

営農速報

平成 28年 4月18日発行

焦らず、しっかり起生期追肥を行いましょ！

1 起生期追肥のタイミング

- 融雪後、ほ場が乾燥し、小麦が起立して新根が動いたら。
- 気温や降雨など天候に合わせて行いましょう。

2 秋まき小麦の窒素施肥(品種:「きたほなみ」)

表1 融雪後(起生期)の施肥窒素量の目安(※セラコート:基肥に50kg/10a入れた場合)

項目	起生期の茎数 (本/m ²)	施肥窒素量 (kg/10a)	セラコート使用ほ場での 施肥窒素量(kg/10a)
過剰	1,600以上	4	起生期追肥なし
標準	800~1,600	6~8	2
不足	800以下	8~10	2~4

※雪腐病などにより越冬茎数が著しく不足するほ場は、直ちにJA又は普及センターに連絡してください。

3 春まき小麦(品種:「はるきらり」)

(1) 初冬まき栽培~窒素施肥量の目安は8~12kg/10a程度~

- は種時にリン酸を施用しない場合は3要素入り肥料を施用しましょう。

※排水不良などにより越冬個体数が著しく不足するほ場は、直ちにJA又は普及センターに連絡してください。

(2) 慣行栽培(春播) ~は種作業は出来るだけ4月末までに!~

- は種量の目安は、12~14kg/10a程度。
- は種作業は畑が乾いてから行ってください。pHは5.5が目安。
- 施肥量の目安は表2を参照してください。

表2 施肥量の目安 (kg/10a)

窒素	リン酸	カリ
6~9	12~14	8~9

(北海道施肥ガイド2015より)

*倒伏のおそれがあるほ場(過去に倒伏した、地力が高い等)では、窒素施肥量は4~6kg/10aとする。

空知農業改良普及センター

TEL 0126-23-2900 FAX 0126-22-2838

E-mail soranokai-honsho11@pref.hokkaido.lg.jp